

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	骨折実技（下肢2）	
科目基礎情報							
開設学科	柔道整復科		コース名		開設期	前期	
対象年次	3年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	1単位		授業形態	実技			
教科書/教材	教科書は「柔道整復学・理論編」、「柔道整復学・実技編」を持参する。その項目ごと固定具を使用する。						
担当教員情報							
担当教員	瀧下 晃洋			実務経験の有無・職種	有・柔道整復師		
学習目的							
取得を目指す柔道整復師免許が患者への施術をすることを業務とする医療資格であることを十分に認識する。特にその業務範囲内の一つである骨折患部への整復や固定などの施術については、適切な判断を怠ると患者の生命・身体に危害が及ぶおそれがある。そのため、下肢の骨折への施術に対する正しい知識・技術・注意事項について熟知する必要がある。柔道整復術の有効性を理解し、骨折への施術をはじめとする外傷・障害への手当てを担う専門家として国民の健康保持に寄与することができる人材を育成することがこの科目を学ぶ目的である。							
到達目標							
柔道整復師の施術は、患者の肉体的な苦痛を一刻も早く取り去り、患部の回復を図ることによって、早期に社会復帰させることにあるが、そのためには筋腱骨格の皮下損傷に対し、原因・現症などを観察、症状を的確に把握し評価したうえで、損傷患部に適応した処置を施し、さらに生体の自然治癒力を促して損傷組織の修復力を高め、経過を再評価し、必要に応じ処置を再処方して、患者を早期に社会復帰させることが重要である。この科目では、下肢の各骨折について発生機転・症状・合併症・続発症・考えられる後遺障害などを理解し、柔道整復師として必要な判断からの施術、そして施術後の指導管理に至るまで知識と技術を身につけることを目標にしている。							
教育方法等							
授業概要	教科書を基準に実技・実習を進める。実技授業中の整復法や固定法の習得に関してはクラス内の学生をグループ分けにより班編成をして、患者役や施術者・助手役に分かれ、指導担当者からの指導により実際の対応に近い形で進めていく。学生自身が将来必要とされる患者への説明技術を向上させることでinformed consentの能力も育成する。						
注意点	国民の健康に寄与する医療人の育成であることを重視する。全授業の出席を原則とする。正当な理由なき欠席・遅刻・早退は認めない。実技であるため白衣未着用であったり、爪の手入れ不足などの不衛生な状態での授業参加も認めない。また、授業中の態度（私語・飲食・居眠り）には厳しく対応する。常に医療現場にて患者に適切な応対ができるマナーを身につけるような心掛けを求める。なお、授業時数の4分の1以上欠席した者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	100%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト	0%					
	レポート	0%					
	成果発表 （口頭・実技）	0%					
	平常点	0%					
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	オリエンテーション 授業概要			実技上、注意すべき事項と今後の授業計画について理解する			
2回	松葉杖の使い方			管理指導上必要な下肢の骨折患者への松葉杖の使い方について理解・体得する			
3回	骨盤骨骨折			骨盤骨骨折の分類・症状・治療法について理解する			
4回	骨盤骨骨折			骨盤骨骨折に対する整復法・固定法について理解・体得する			
5回	大腿骨近位端部骨折			大腿骨近位部の骨折に対する分類・症状・整復法・固定法について理解・体得する			
6回	大腿骨骨幹部骨折			大腿骨幹部の骨折に対する分類・症状・整復法・固定法について理解・体得する			
7回	大腿骨遠位端部骨折			大腿骨遠位端部の骨折に対する分類・症状・整復法・固定法について理解・体得する			
8回	前期7週までの振り返りと確認演習			1回～7回までの知識・技術が蓄積されているか確認する			
9回	膝蓋骨骨折			膝蓋骨骨折に対する分類・症状・整復法・固定法について理解・体得する			
10回	下腿骨近位端骨折			下腿骨近位端部骨折に対する分類・症状・整復法・固定法について理解・体得する			
11回	松葉杖			下肢の各骨折に対する松葉杖の使用法について理解・体得する			
12回	下腿骨骨幹部骨折			脛骨単独・脛腓両骨・腓骨単独各骨折に対する分類・症状・整復法・固定法について理解・体得する			
13回	下腿骨疲労骨折			下腿骨疲労骨折の概説・分類・発生機序・症状・治療法について理解する			
14回	前期13週までの振り返りと確認演習			9回～13回までの知識・技術が蓄積されているか確認する			
15回	まとめ			半期で取得した知識の確認			